

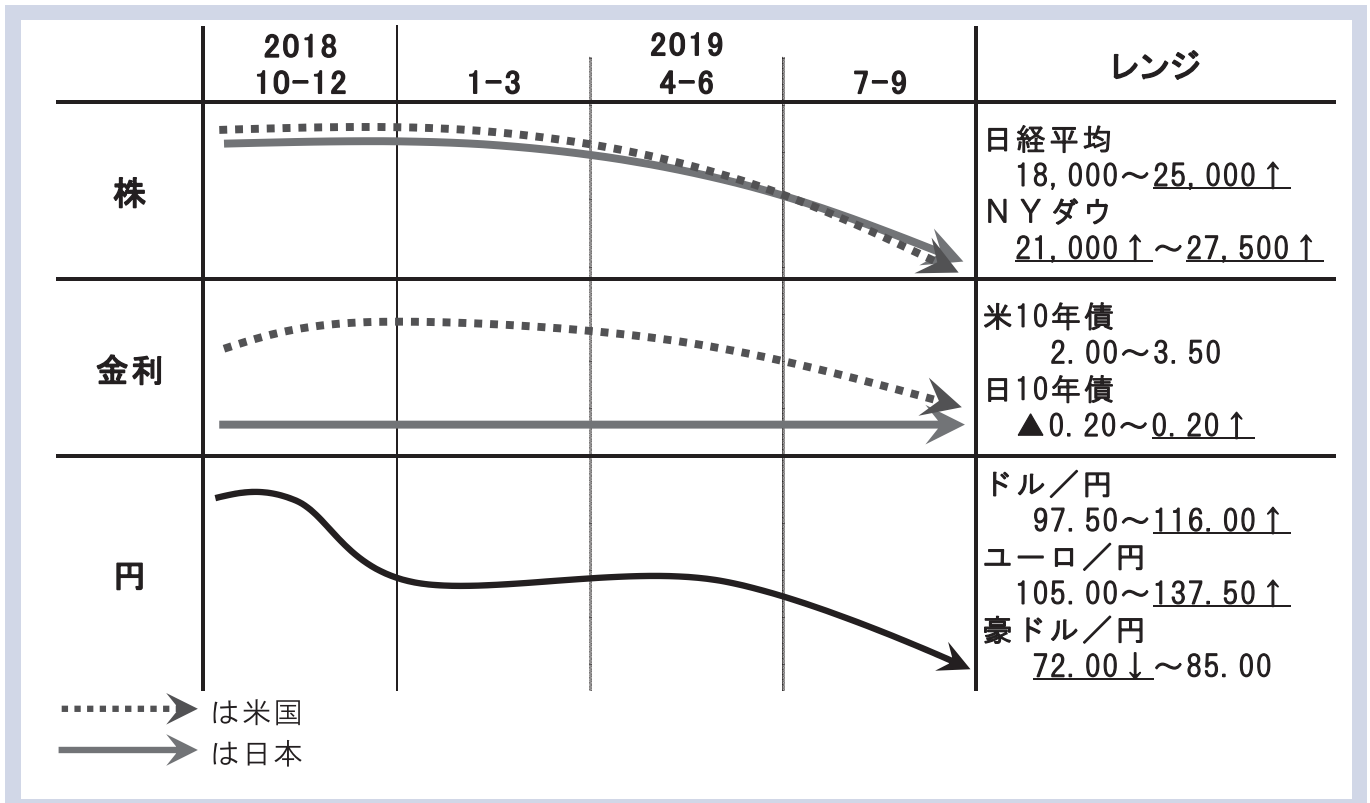
各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

(10月5日時点)

I. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	足元で景況感の改善が鈍っているが、問題視する必要はないだろう。先行き、世界経済の回復に伴って輸出が増加基調で推移することに加え、企業収益の改善を背景として設備投資も好調さが持続する見込み。企業部門主導で景気は回復基調の推移を続ける可能性が高い。
② 米国	米中貿易戦争が激化しているものの、2国間での関税引き上げ合戦では他国との貿易量の拡大などにより悪影響は限定的なものにとどまる可能性が高い。米国経済は、雇用・所得、資産残高の増加、減税による個人消費の押し上げを背景に、堅調さを維持する見込み。堅調な景気拡大が続き、労働市場の逼迫が続く中、FRBIは18年12月、19年3、6月まで利上げを継続すると予想される。
③ 欧州	ユーロ圏経済は、雇用・所得環境の改善やユーロ安進行が支えとなり、今後も成長が持続するとみられる。ただ、貿易戦争に対する警戒から、輸出企業を中心に業況改善にブレーキが掛かっており、昨年の高成長の再現は難しい。物価の下振れリスクが後退したことを受け、ECBIは12月末で資産買い入れを終了する。
④ アジア・新興国	アジア・新興国経済では、世界景気の自律回復による外需底入れの動きが景気押し上げに繋がっている。米中貿易戦争の行方は、中国への依存度が高いアジア・新興国に影響を与えることが懸念され、今後の行方には引き続き注意が必要である。他方、先進国を中心とする世界経済の拡大は、これらの国々の景気を下支えすると期待される。

II. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



(注) 記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません
レンジについては、前月号から変更した値に下線を引いております。(上方修正: ↑ 下方修正: ↓)